

第17回アビリンピック京都大会 ホームページ部門 競技課題

競技仕様

1 競技の内容

第17回アビリンピック京都大会のサイトを作成する。

2 提供物

- 本紙 (abilympic17th_web.pdf)
- 原稿 (「原稿」フォルダ)
- デザイン案 (「デザイン案」フォルダ)
- 画像素材 (「画像素材」フォルダ)
- マークアップ素材 (「マークアップ用素材」フォルダ)

3 バージョン

HTMLのバージョンは5以上、あるいはLS (Living Standard) とする。

CSS、JavaScriptについては、バージョンは問わない。

またブラウザの下位互換に配慮し、下位バージョンのブラウザであったとしても、閲覧に際しなんらかの不具合が出るような制作物は減点対象となる。本競技では、「マークアップ用素材」フォルダに、HTMLのひな形として「abilympic17th.html」を用意している。

4 文字コード

HTMLおよびCSSファイルの文字コードは問わない。正しい宣言をして、正しい文字コードを使っていればそれでよい。

5 ソフトウェア

競技実施要領に定める通り、Windows Internet Explorer 11 を利用した閲覧環境を想定とするが、ブラウザの下位互換配慮等は加点の対象となる。エディタは、競技場においては、競技用端末にあらかじめインストールされている、サクラエディタが使える。持ち込みのPCによる任意のエディタを用いてもよい。競技に際しては、なんらかのバリデータ (The W3C Markup Validation Service、W3C CSS 検証サービス) 等、ウェブ上のツール等も用いてよい。

6 注意事項

参考書籍、インターネット等を用いてよい。ただし人に尋ねてはならない。Yahoo!知恵袋などのサイトへの質問、あるいはインターネット経由でなくとも、競技中に電話やメール等で第三者に尋ねることは禁ずる。インターネットで検索する際は、検索キーワードを工夫する等して、独力で解決をすること。

設問 1: マークアップ

以下注意事項に配慮しつつ、与えられた原稿をマークアップしなさい。原稿は、「原稿」フォルダにあり、以下のファイルにあらかじめ分かれている。

- トップページ.html
- 大会概要.html
- 競技種目.html
- 問い合わせ.html

注意事項

- 設問 1 の成果物は 4 つの HTML になる。リンク切れがなければ、ファイル名やフォルダ名称は自由に変更しても良い
- 墨付き丸括弧（【】）にて個別の指示が記載されているので、その指示に従うこと
- 「個別の指示」については、マークアップ対象ではないので、適宜削除すること
- マークアップの際は文章の意味を汲み取り、適切な論理構造でマークアップすること
- 適宜、見出し（h1、h2 など）のマークアップを行うこと。記号「■」で始まる行を大見出しとし h1 とすること。中見出しは h2 にする。記号「●」からはじまるものは中見出しとすること。マークアップの際、記号である「■」「●」は削除すること
- アクセシビリティに配慮し、必要であれば原稿の加工も行うこと。ただし意味を改変してはならない
- 原稿にあきらかな問題（リンク切れなど）があれば、修正すること
- この設問においては見栄え（プレゼンテーション）の配慮はしなくてもよい

設問 2: プレゼンテーション

以下注意事項に配慮しつつ、「デザイン案」フォルダの「デザイン案.jpg」のように、設問 1 の成果物に対して CSS の編集をしなさい。

注意事項

- 設問2では設問1の成果を用いるが、設問2に取り組む際、設問1に対する改善点を見つけたら適宜修正してよい
- 設問1の成果物にCSSを適用するにあたって、必要なclass名などは適宜設問1の成果物を編集してあてがうこと
- CSSは外部のファイルに記述し、HTMLからリンクして利用すること
- CSSファイルの名称は自由とする

指示

- 別添のデザイン案を参照し、同様のデザインになるようにCSSを記述しなさい。デザイン案は「画像素材」フォルダの中にあるものを参照すること
- 別添のデザイン案の「メニューの振る舞い」を参照し、メニュー部分についてCSSでマウスオーバー時のデザインを設定しなさい

設問 3: JavaScript

「大会概要」には、メールアドレスをクリックする箇所が複数存在するが、これらの箇所において、クリックをしたら「メールソフトを起動します。よろしいですか?」と尋ね、OKかキャンセルを選べるようにしなさい。OKを押したら、mailto:のリンクを有効にし、キャンセルの場合はメール送信を行わないようにしなさい。

注意事項

- JavaScriptは、HTML内に記述してもよいし、別ファイルにしてもよい
- noscriptを用いる等して、JavaScriptをオフにしてもメールソフトが起動するリンクを使うことができるように配慮すること

(以上)